



グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になった支援方法等</li> </ul>	<p>動画で動きの練習。繰り返すことで定着。 定着すれば、言葉かけなどに移行。 SST：日常生活スキルの獲得の観点では、当てはまらない。その中で、機器の管理や友だちとの共同使用の場面では、SST が有効。</p>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>給食終了後、自分でタブレット端末を操作して、歯磨きする姿が見られた。一方で慣れてくると、設定時間より短く切り上げることがあり言葉かけが必要であった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>対象生徒への支援として iPad を用意したが、クラスのほかの生徒も活用して歯磨きを行う姿が見られた。また、使用に際し iPad の受け渡しやゆすり合いなど生徒同士の適切な関わりも見られた。 継続して取り組むこと、家庭でも使用していただけるよう懇談で伝えることなどが今後の課題である。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した歯磨きへの取り組みと習慣化。 どこを磨くかの手順を決めて、自分で丁寧に歯磨きに取り組むことができるようになることが今後の課題である。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（ダウン症等）
	• 対象児童生徒の課題	課題：トイレ 保護者の願いは、本人がパンツで過ごせるようになることである。新しい環境になったため、本人が中学部生活の中で定時排尿を意識できるようになることが課題である。
	• 自立活動の目標	布パンツで過ごせる時間を増やす。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	本人が定時排尿を意識できるように、登校時や休み時間にトイレ指導を行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	1学期初めは、トイレに行っても何も出ないことが多かったが、現在はトイレで排泄を成功することが増えてきた。 午後の時間は、トイレが間に合わずに失敗することがあった。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	休み時間などの決められた時間にトイレに必ず行くようにしたため、生徒が定時にトイレに行くことが分かってきたように思う。トイレに連れていく時は、言葉かけをしたり、トイレの方向を指さして伝えたりした。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	定時排尿に行く際に、本人がトイレサインを示す練習を合わせてすることで、トイレとサインを結びつけることができるような支援を行う。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>本人のトイレの失敗が少なくなってきたため、家庭と相談し、2学期途中より、オムツを使用せずに過ごした。トイレを失敗することも非常に少なくなった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>本人がトイレに行きたくなったときに、自分の体をトントンとして伝えるサインの練習を続けた。それが教員に伝わり、授業中にトイレに行って成功できることがあった。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>トイレの取り組みの成果が出たので、次の課題として、朝や帰りの準備でできることを増やすことを目標とする。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD(学習障害)、□ADHD(注意欠陥・多動性障害)、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他( )
	• 対象児童生徒の課題	大量に泡石鹸を使用し手洗いするが、洗い方が不十分である。
	• 自立活動の目標	適正量の石鹸を使用し、丁寧に手洗いすることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持                      心理的な安定                      人間関係の形成 環境の把握                      身体の動き                      コミュニケーション
	• 支援の手立て	適切な手洗いの手順を絵カードで確認し、教員の言葉かけと、回数・秒数カウントにより意識して行えるようにする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	泡せっけんは1回プッシュ(2回押すこともあるが)し、ゆっくり自分で10まで数えながら手の平を洗い、続いて手の甲を同じく10秒で洗うパターンができた。ただし給食前限定になっているため、その他の場面でも同様に定着できることが望ましい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	対象生徒は重度ではあるが文字を読んで理解できるので、簡単な言葉や文章での視覚支援が有効であった。また会話の内容をインプットし、アウトプットすることができるので、キャッチコピーのように耳覚えの良い言葉をかけることで、すんなり行動に移すことができる。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	個人的な行動改善という観点が強いのでSSTに直接的には当てはまらないかも知れないが、俯瞰的に見れば、社会的なルールを守る、感染を防ぐという意味合いもあるためSSTと捉えることもできるかも知れない。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>1学期に引き続き、給食の準備の際、ほぼ独力で②の方法で手洗いすることができている。給食時以外はまだその都度言葉かけがなければ、同じ方法で手洗いしないが、1学期当初に見られたような、さっと濡らすだけで終わるような手洗いの方法はしなくなってきている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法</li> </ul>	<p>行動の順序をリスト化して、常に掲示しておくのが効果的で、手順1が終了すれば手順2に進めるという方法で取り組んでいる。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>来年度も継続して、手洗いの課題に取り組む。</p> <p>これに加え、来年度は疑問文の質問に対する返答がエコラリアになるので、意思を伝えられるように課題を設定する。給食中での活動が一番効果的であるため、教員の「(おかず名) 食べますか」に対し、「食べます」もしくは「食べません」と答えられるようにする。</p>